

平成20年度大村椿の森学園事業実績報告書

大村椿の森学園（情緒障害児短期治療施設）の運営

1. 施設の目的

児童福祉法（第43条の5）による情緒障害児短期治療施設として、「軽度の情緒障害を有する児童を、短期間、入所させ、又は保護者の下から通わせて、その情緒障害を治す」ことを目的とする。

2. 事業実績

大村椿の森学園が開所して6年目の平成20年度は、「もう新設施設とはいえない」という思いで、よりレベルアップするための試みを取り入れた1年であったといえる。

まずは、入所定員の5人増が認められ40人からスタートした。それに伴い、職員数も2人の増員が可能となり、マンパワーの強化につながった。他に、被虐待児個別対応職員の常勤化に伴い、最低基準にはない職種の作業療法士を採用したことも大きく、それにより、環境療法・心理療法・医療という治療システムに、感覚統合療法を中心とした作業療法が加わり、より広がりや深みをもった治療が可能となった。

平成20年5月に県内の身体障害者の施設にて起きた誤薬による入所者の死亡事件を受け、薬マニュアルの見直しを行うとともに、アクシデント発生時のエラー分析を丁寧に行うなど危機管理の強化を行った。しかしながらその反面、入所児童等による、無外時の米軍敷地内への侵入や、近隣の建物等への失火という社会的に迷惑をかける事件を発生させてしまい、更なる児童への支援やシステムとしての安全管理の推進等、課題となった。

また治療の効果としては、年長児の自立に向けた取り組みの成果がみられた。まずは、今年度の11名の退所者のうち4名が19歳でかつ平均在学期が4年11ヶ月であった。短期治療施設としては長い入所期間であったが、従来進まなかった自立へのケースワークが功を奏したと思われる。もう一つには、高卒後に就職が決定した児童が初めて誕生したことである。今後、継続していききたい支援である。

最後に、厚生労働省からの「社会的養護における施設ケアに関する実態調査（タイムスタディ調査）」の協力施設として、全国の32の情短施設の中の4施設に選ばれた。これは、ユニットのある支援の優秀な施設としての選定である。また調査により、今後、施設に対する必要な人員配置や措置費の算定のあり方についての検討がはじまるため、その貢献ができたことは喜ばしい。多忙な年度末に、全職員はもとより大村共立病院の職員からの協力も得ることができ、感謝している。加えて、NHKの取材を受け平成21年1月に放映された教育テレビ「こどものきもち24じ」により、多くの福祉関係者から、当施設の取り組みへのあたたかい励ましや高い評価をいただくことができた。更に取材が続き、来る7月4日にNHK総合テレビ「追跡! A to Z」では、当学園の子どもや支援の現状が放映されることになっている。今後も、こうした社会への発信を積極的に行い、中身の充実も図っていききたい。

3. 職員の動向

イ、 職員構成（4月1日現在）

	定員	現員
施設長	1名	1名
副施設長	0名	1名
医師	1名	「5」名
看護師	1名	1名
セラピスト	6名	6名
児童指導員・保育士	10名	10名
被虐待児個別対応職員	1名	1名
家庭支援専門相談員	1名	1名
栄養士	1名	1名
事務員	1名	1名 「1」名
調理員等	4名	4名
宿直補助員	0名	「1」名
計	27名	34名

「 」は非常勤

ロ、 勤務形態（直接処遇職員）

早出 : 7:00～16:00

日勤 : 8:30～17:30

遅出 : 13:00～22:00

宿直 : 22:00～翌7:00

ハ、 職員の異動（退職、採用等）

退職 : 児童指導員1名 セラピスト1名 調理員1名 看護師1名
栄養士1名、事務員1名

採用 : 児童指導員1名 セラピスト1名 調理員2名 看護師1名
事務員1名

ニ、 各種会議の開催、出席

全情短施設長会、全情短職員研修会、こども・女性・障害者支援センター、少年センター、県・市教育委員会、西大村小・中学校、県児童養護施設協議会等機関との会議の開催・出席。

4. 児童の動向

イ、 入所動向

〈入所定員40名 (暫定38名)〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
各月初日在籍 児童数	36	37	37	38	38	38	39	37	37	37	38	38
各月入所 児童数	5	1		2	1	1			1		1	
各月退所 児童数	1	1			2		2	1				4

〈通所定員15名 (暫定12名)〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
各月初日在籍 児童数	12	13	13	13	13	13	13	13	13	13	12	12
各月入所 児童数	1											
各月退所 児童数										1		

ロ、 診断名 (入所時) (3月31日現在)

[入所児]

- ・ 適応障害 (2名)
- ・ アスペルガー症候群 (9名)
- ・ 非器質性遺糞症 (1名)
- ・ 反応性愛着障害 (9名)
- ・ てんかん (1名)
- ・ 多動性行為障害 (1名)
- ・ 注意欠陥多動性障害 (ADHD) (2名)
- ・ 小児自閉症 (2名)
- ・ 統合失調症 (6名)
- ・ 特異的書字障害 (1名)

[通所児]

- ・ アスペルガー症候群 (3名)
- ・ 非定型自閉症 (1名)
- ・ 小児期分離不安障害 (1名)
- ・ 適応障害 (3名)
- ・ 不登校 (3名)
- ・ 神経性無食欲症 (1名)
- ・ 場面緘黙 (1名)

ハ、 年齢構成 (3月31日現在)

	未 就 学	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3	17 才	18 才	19 才	計
入所		1	1	3	2	3	3	3	6	8	1	3					34名
通所		1		1		1		1	2	1	4						11名
計		2	1	4	2	4	3	4	8	9	5	3					45名

二、 児相別措置児数（3月31日現在）		
	（入所）	（通所）
長崎県中央児相	18名	8名
〃 佐世保児相	3名	2名
大分県中央児相	1名	
大分県中津児相	1名	
佐賀県中央児相	2名	1名
福岡市児相	3名	
北九州市児相	3名	
久留米市児相	1名	
宮崎県児相	1名	
鳥取県米子児相	1名	

ホ、 保護者の状況（3月31日現在）		
	（入所）	（通所）
実父母	7名	7名
実父継母	2名	
実母継父	2名	
父のみ	5名	
母のみ	17名	4名
その他	1名	

5. 主な実施事業（業務）

イ、 クラブ活動

○ いちごクラブ（9回）

裁縫や料理を通して、家庭的な雰囲気を経験する。

○ 野球クラブ（132回）

スポーツを通して、健康増進と仲間作りをする。

ロ、 行事

入所児の健やかな成長を願って、年間を通じ各種行事を実施した。

（4月）

誕生会、花見会、入学式、野球観戦

（5月）

誕生会、子どもの日

（6月）

誕生会

（7月）

誕生会、七夕会、施設球技大会

- (8月)
誕生会、夏越祭り、千羽鶴奉納、海水浴、キャンプ、
素麺流し&花火大会&バーベキュー大会
- (9月)
誕生会、月見会
- (10月)
誕生会、カメラ祭、カメラカップソフトボール
- (11月)
誕生会
- (12月)
誕生会、クリスマス会、もちつき会
- (1月)
誕生会、初詣、外食会、鬼火焚き
- (2月)
誕生会、節分会
- (3月)
誕生会、ひな祭り、卒業式、旅行

ハ、 特別事業

○ 処遇困難事例研究事業

事業内容 : 処遇困難ケースについての研究会の開催、職員を各研修に参加させる等(補助額: 15万円)

実績 : 児童思春期臨床研究会への参加、全情短・子どもの虹・県養護協等主催の研修に延べ25名の職員が参加した。

○ 心身機能低下防止事業(補助額: 15万円)

事業内容 : クラブ活動、海水浴、旅行

実績 : 心身の健康増進を図るために、夏に海水浴、キャンプ、3月に熊本県(日帰り)に旅行を実施した。

○ 総合防災対策強化事業(補助額: 45万円)

事業内容 : 防火対策の備品購入、宿直専門職員の配置

実績 : 防火対策としてトランシーバーを購入した。
また、マンパワー確保により防災を円滑に行う為に、宿直補助員を配置した。

○ 家族療法事業(補助額: 200万円)

事業内容 : 面接治療、宿泊治療、家庭訪問治療等

実績 : 54家族(入所41家族、通所13家族)に対し、延べ505回(入所410回、通所95回)実施した。

二、 見学・研修の受入れ（団体・個人）

施設の見学については積極的に受け入れ、啓発に努めた。年間を通じて

17の個人・団体の見学があり、研修を含めて実施した。

児童福祉行政関係	1
児童委員等児童福祉関係	1
教育関係	3
県議会	1
医療関係	2
ボランティア希望	1
福祉関係学校・学生	4

6. 学校教育

平成20年度も昨年同様、西大村小学校、西大村中学校の情緒障害特殊学級として分教室の教育形態であった。4月当初の入所児童の人数（小学生11名・中学生15名）により小学校2名・中学校2名の教員で行われた。年度途中で小学生が14名、中学生が19名まで増え、長崎県こども家庭課の尽力により長崎県教育委員会の関係課とのヒヤリングの場が設けられたものの、年度途中の教員の加配はないままであった。

中学3年生の進路としては、2名が公立高校定時制（昼間・夜間）に、1名が私立高校に、4名が養護学校高等部に合格でき、そのうち1名が退所となった。少ない教員配置の中での受験指導にご尽力を頂いたものとする。

平成21年度も同様の形態ではじまった。4月当初の入所の小学生が10名中学生が14名であり、それに伴う教員は、小学校2名と中学校2名のところ、加配教員が各々1名ずつ配置された。そのうち1名は非常勤のため時間数が少ない状況であるものの、6名の教員による教育体制は開設以来はじめてであり、教育の充実が期待される。

しかしながら、特に中学校において教科ごとの学習の保障や受験指導の不十分さは明らかであり、また特別支援学級の少人数教室にも入ることができず個別教育が必要な児童もいることなど、現場の教員の負担と苦労は著しいものがある。今年度は、県こども家庭課主催により、本格的に教育体制の検討委員会が県・市教育委員会とともに開催される。より良い教育体制の早期実現に向けて努力していきたい。

平成20年度富の原くじら児童クラブ事業実績報告書

富の原くじら児童クラブ（放課後児童健全育成事業）の運営

1. 施設の目的

小学生の児童を持つ共働き家庭など、親の就労などにより保育が日常的に欠ける児童に対し、放課後適切な指導のもとで、健全な成長と発達を促すことを目的とする。

2. 事業実績

富の原くじら児童クラブが昨年3月24日に開園し、約1年が経過した。

この1年は開園の年であったため、全てが手探りで運営せざるを得ない状況であった。

しかしながら、今年度は25名（5名増）のスタートとなっている。これは徐々にではあるが、昨年からの実績が評価されてきている結果と言える。

ただ、昨年の実績を見ると、富の原小学校まで徒歩3分という立地にありながら、富の原小学校の児童数が2名と低迷している。

児童数を定員（40名）まで引き上げるには、この校区の児童数をいかに増加させるか今後の課題である。

3. 職員の動向

イ、 職員構成（4月1日現在）

	定員	現員
指導員	3名	3名
計	3名	3名

※障害児加配1名含む

ロ、 勤務形態

月～金曜日 : 11:00～20:00

土曜日 : 8:00～20:00

※上記開園時間内でローテーション勤務

ハ、 職員の異動（退職、採用等）

退職 : 指導員1名 看護師1名

採用 : 指導員2名

4. 児童の動向

イ、 児童数動向

〈定員40名〉

各月初日在籍 児童数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	20	20	20	19	24	23	22	22	22	22	22	22

ロ、 年齢構成 (3月1日現在)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
入所	13	5	2	2	0	0	22名
年間平均	13	4	2	3	0	0	22名

ハ、 校区別人数 (3月1日現在)

竹松小学校	9名	富の原小学校	2名
三城小学校	5名	放虎原小学校	2名
福重小学校	3名	西大村小学校	1名

ニ、 行事

園児の健やかな成長を願って、年間を通じ各種行事を実施した。

(4月)

対面式、歓迎遠足

(5月)

誕生会、子どもの日お祝い会

(6月)

誕生会

(7月)

誕生会、リバーウォッチング

(8月)

誕生会、夏越祭り、ドッジボール大会、バーベキュー大会、
大村椿の森学園夏祭り

(9月)

誕生会

(10月)

誕生会、カメラ祭

(11月)

誕生会

(12月)

誕生会、クリスマス会

(1月)

誕生会

(2月)

誕生会、節分会

(3月)

誕生会、ひな祭り、お別れ会